

# 弥生の空に

(昭和十五年寮歌)

大井徹夫君 作歌・作曲

## 一

弥生の空に消え残る  
霞に春の絢夢聞けて  
前途を祝ふ花吹雪  
友情の盃を交しつつ  
北斗の光身に享けて  
仰ぐ健児の影清し

## 二

手稻の山に陽は落ちて  
広き蒼空の茜雲  
「我立たずんば」の意気あれど  
昇天の機を小百合咲く  
静けき故郷に憩して  
暫し臥竜の夢に見む

## 三

春雨煙る並木路に  
輪廻の相俣びては  
露置く花を愛しみて  
遠き思索に逍遙へば  
緑の牧場眼に著き  
野路は果てなく黄昏れぬ

## 四

究理の道は遠くとも  
研磨の窓に月匂ふ  
白魔曠野に狂ふとも  
明日は希望の太陽笑ますや  
正義の大道濶歩する  
熱血男児ここにあり

## 五

光かそけき原始林蔭の  
月に散り布く花蓆  
エルムの精も踊るてふ  
記念祭の歌は飴して  
永世を寿ぐ篝火に  
歓喜の夜は更けゆきぬ

## 六

不壊の智玉を育みて  
恵迪ここに早三年  
静寂の檢鐘に眼をやれば  
見よ東雲は輝けり  
いざ船出せむ波濤越えて  
嗚呼人生の朝ぼらけ